【被服衛生学セミナー報告】

第 42 回被服衛生学セミナー開催報告

潮田ひとみ

東京家政大学

１．はじめに

令和 5 年の日本家政学会第 74 回年次大会は東京家政大学で実施され、大会最終日で恙なく大会を終わることができそうだという開放感で気が大きくなっていた私は、第 42 回被服衛生学セミナーの実行委員長を自ら引き受けてしまった。今後のために、最初に記載しておくが、ワンマン部会長が実行委員長を兼ねるのは大変に危険である。進度が遅いこと、このままでは実施が危ういことを強く指摘してくださる方がいないのだ。例年、被服衛生学セミナーの実行委員長としての仕事は、前年度の 1 月後半から始まる。活動助成の申請である。この時点でおおよそのテーマを決定し、前年度の内容を一部踏襲しながら、3 月に提出する。申請書を提出した時点で、講演者やテーマが確定するため、この時点で、講演者、会場等を押さえることが肝要である。スポーツと DX の両方を考慮したテーマで開催しようと考えていたところ、大谷選手が結婚すること、出会いの場所が家政大近くのスポーツ施設であることがわかった。かくして 2 日目の見学場所は早々に確定した。

２．実施内容

令和 6 年度第 42 回被服衛生学セミナーのテーマは、『スポーツの科学』、実施日は、8 月 27 日～8 月 28 日と決定した。例年、この 1 週間前ぐらいの日程でセミナーを開催していたが、後ろにずらしたことにより、被服整理学部会・被服材料学部会の合同セミナーと重なってしまった。また、台風上陸が数日前から予想されており、新幹線が運休するなど、参加者が少ないことが予想された。１日目は、DX 時代にふさわしい、スポーツウエアの着装シミュレーション解析、スポーツ栄養学に関する講演をしていただいた。「DX 時代をリードするスポーツウエア開発」というタイトルで、ミズノ株式会社設計・パターン開発課課長の田中啓之氏にご講演いただき、DX を用いた最新の研究成果についても話していただくことができた。「スポーツと栄養　～パラリンピックからみえるもの～」というタイトルで、東京家政大ヒューマンライフ支援センター教授内野美恵氏からは、実際に関わられたパラリンピックでの食の役割について興味深い知見を得ることができた。

2 日目は部会員による若手研究者発表 2 件と部会員による研究発表 2 件が行われた。東京家政大学服飾美術学科講師の金子真希氏により「和裁基礎技術の評価の分析」、実践女子大学研究推進機構 機構研究員の傳法谷郁乃氏による「体幹部の局所冷却における温熱的快適性－接触時間による変化と部位差－」が報告され、丁寧な質疑応答がなされた。文化学園大学教授佐藤真理子氏からは「伝統的スポーツにおける衣服の快適性研究―剣道着と袴に着目して―」という内容で、大妻女子大学教授水谷千代美氏からは「吸湿発熱繊維を用いたスポーツ用インナーの保温性」という内容で発表があり、活発な質疑応答が行われた。

午後にはナショナルトレーニングセンターに移動し、2 グループにわかれて施設を見学した。オリンピックから戻ったばかりの選手が再びトレーニングに打ち込む様子を見ることができた。

参加してくださった部会員の皆様の満足度は高いと自負しているが、活動助成金の大幅な減額、悪天候等によるキャンセル、講師の先生に前泊していただくなどのイレギュラーな事項があり、前回に続き、部会から補填していただいた。いくつかは、早めに準備しておけば防ぐことができたことと反省している。2025 年夏には名古屋で部会員の皆様と是非お目にかかりたいと思う。

＜連絡先＞
〒173-8602　東京都板橋区加賀 1-18-1
東京家政大学家政学部服飾美術学科　潮田ひとみ
TEL: 03-3961-8568（研究室直通）
E メール：ushioda-h@tokyo-kasei.ac.jp